

各 位

株式会社 東 和 銀 行

平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算（単体）について
～変動利付国債売却で損失計上となるも業績は順調に推移～

平成 23 年 3 月期第 1 四半期（単体）の純利益は、△29 億 76 百万円（前年同期比 39 億 17 百万円減少）の計上となりましたが、これは、0.3%の低利運用となっていた変動利付国債（累計 1,200 億円）の売却を前倒して実施した結果であります。

一方、本業の収益を反映するコア業務純益をはじめとした実績は概ね計画どおりに推移しており、経営強化計画第 2 期目にあたる平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算は順調なスタートとなっております。

【単体決算概要】

- 預貸金について、預金は前年同期比 167 億円増の 1 兆 6,267 億円、貸出金は同 217 億円増の 1 兆 1,954 億円と順調に増加いたしました。
- 資金利益は預貸金の増加と有価証券利回りが改善したことなどから、前年同期比 3 億 99 百万円増加し 70 億 31 百万円となりました。
- 変動利付国債の売却による損失は 34 億円ですが、同時に有価証券利回りは、この四半期で前年同期比 0.27 ポイント上昇し 1.56%となりました。
- その結果、本業の収支状況を示すコア業務純益は、前年同期比 5 億 49 百万円増加し 20 億 96 百万円となり、プランフェニックスⅡの通期目標 87 億円の達成に向け、順調な滑り出しとなりました。
- 平成 23 年 3 月期の業績予想につきましては、平成 22 年 5 月 14 日決算発表時の経常利益 5 千万円、当期純利益 5 億円から変更はありませんし、配当を実施する予定にも変更はありません。

【取締役頭取 吉永國光からのメッセージ】

平成 21 年 10 月からスタートしたプランフェニックスⅡ（経営強化計画）の計画第 2 期目にあたる平成 22 年度第 1 四半期決算は、預貸金とも順調なスタートとなりました。

また、計画で主な目標であるコア業務純益は、前年同期比 5 億 49 百万円増の 20 億円となり、好調に増加しており、ほぼプランフェニックスⅡどおりの数字となっております。

一方、計画に従い変動利付国債を前倒して売却した結果、第 1 四半期決算は△29 億円となりましたが、有価証券利回りの改善により中長期的な収益力は大きく向上してまいります。

当行は、今後も地域の中小企業の皆様等への円滑な資金供給や経営改善支援、条件緩和への積極的対応、日銀の成長基盤強化支援のための資金供給制度の活用など、「雨でも傘をさし続ける銀行」らしさを発揮してまいります。

平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算（単体）の要点は以下のとおりです。

1. 預金・貸出金の状況

（単位：億円）

	平成23年3月期 第1四半期	平成22年3月期 第1四半期	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
預金	16,267	16,100	167	1.0
貸出金	11,954	11,737	217	1.8

預金は、個人預金を中心に「宝くじ付定期預金」等お客様のニーズに応えた商品の販売と、お客様回りを徹底し預金の吸収に努めた結果、前年同期比 167 億円増加の 1 兆 6,267 億円となりました。

貸出金は、地域への円滑な資金供給に努めた結果、前年同期比 217 億円増加の 1 兆 1,954 億円となりました。

2. 損益の状況

■平成 23 年 3 月期第 1 四半期業績（平成 22 年 4 月 1 日～6 月 30 日）

（単位：百万円）

	平成23年3月期 第1四半期	平成22年3月期 第1四半期	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
業 務 粗 利 益	4,103	7,028	△2,924	△41.6
資 金 利 益	7,031	6,631	399	6.0
コ ア 業 務 純 益	2,096	1,546	549	35.5
臨 時 損 益	△ 1,775	△ 916	△858	93.7
不 良 債 権 処 理 額 (△)	560	589	△28	△4.8
株 式 等 償 却 (△)	825	126	698	554.0
経 常 利 益	△ 2,941	641	△3,583	△559.0
特 別 損 益	5	310	△ 305	△ 98.4
四 半 期 純 利 益	△ 2,976	941	△ 3,917	△ 416.3
信 用 コ ス ト	529	440	88	20.0

平成 23 年 3 月期第 1 四半期のコア業務純益は、2,096 百万円となりました。

なお、有価証券利回りの改善を目的として、変動利付国債を売却した結果、経常利益は△2,941 百万円、純利益は△2,976 百万円となりましたが、経営強化計画に基づいた処理が功を奏し、有価証券収益の改善基調を受け、損益計画は順調に推移しております。

■信用コストの推移

（単位：億円）

	信用コスト	前年同期比	コア業務純益
平成 19 年度計	73	△234	64
平成 20 年度計	53	△20	55
平成 21 年度計	6	△47	59

平成 23 年 3 月期第 1 四半期の信用コストは、靴底を減らしてお客様の実態把握を十分に行い、適切な資金応需に努めた結果 529 百万円と依然低水準で堅調に推移しております。

3. 自己資本比率（国内基準）の状況

【連結】

	平成22年6月末	平成22年3月末
連結自己資本比率	8.84%	9.19%
連結 Tier1 比率	7.50%	7.85%

【単体】

	平成22年6月末	平成22年3月末
自己資本比率	8.85%	9.20%
Tier1 比率	7.51%	7.85%

変動利付国債の前倒しの処理により、平成 22 年 6 月末の連結自己資本比率は、一時的に低下し前年度末比 0.35 ポイント低下の 8.84%、単体自己資本比率も、同 0.35 ポイント低下の 8.85% となりました。

以 上